

## 平成 30 年度 第 2 回 学校運営協議会報告

【日 時】 平成 30 年 11 月 29 日 (木) 18 時～20 時

### 【出席者】

学校協議会委員：岩井 英雅 (元府立学校校長)

大原 武史 (寝屋川市立第一中学校長)

松下 孝雄 (北水会) 巽 順子 (地域住民)

水野 洋子 (PTA 定時制委員会委員長)

高崎 美和 (PTA 定時制委員会副委員長)

准 校 長：浅川 又一

事 務 局：伊藤 牧子 (教頭) 北村 陽子 (首席・養護教諭) 山中 健 (教務主任)

庄司 樹生 (生徒指導主事) 中村 久子 (進路指導主事)

藤村 幸博 (保健主事・教育相談委員長・支援教育コーディネーター・フォローアップコーディネーター)

田代 興太郎 (4 年学年主任) 沼田 慎也 (1 年学年主任)

1 開会

2 会長挨拶

3 准校長挨拶

4 授業見学 1 限 1 年 標準国語 (鈴木) 1 年 基礎コミュニケーション英語 I (和氣)  
1 年男子 体育 (沼田・庄司)

5 協議

(1) 第 1 回授業アンケート結果 (別途資料参照) 回答数：200 人

### 【全体を通して】

- ・居眠りや私語をしていない生徒が増加してきた
- ・視聴覚教材などを活用し工夫している授業が増えている。

### 【授業見学の感想】

- ・ICT を活用し、黒板に投影された青い文字は非常に見やすかった
- ・はっきりした言葉で話しているので良かった。
- ・教材の「羅生門」は、今の生徒たちには難しいと思われる。もっと新しい教材内容にした方が、生徒は興味をもつのではないか。  
生徒が感情移入しやすい教材がいいのではないか。
- ・ゆっくり、はっきり話し、ポイントがわかりやすいように説明されていたのが印象的だった。  
生徒も落ち着いて受けていると思った。
- ・英語は大変わかりやすい説明でおもしろかった。
- ・体育もとても楽しそうであった。

(2) 分掌等の取組みの進捗状況について（別途資料参照）

【学年】

**1年生** 在籍数：111名⇒106名（進路変更5名）

学年方針：自分と色々な人・物・時間を大切にしてメリハリのある学校生活にする。

生徒の様子：おとなしい生徒が多い。授業の雰囲気壊さず落ち着いてがんばっている。

学年レクリエーションでは、引っ込み思案な生徒が多かった。

SNSトラブルがあり、自分たちで解決できない生徒がいる。教師がアンテナをはり、早期に解決できるようにしたい。

**2年生** 在籍数：66名⇒61名（進路変更5名）

学年方針：やるべき時にはやる。ダメなものはダメということを自分で判断できるようになってきている。

生徒の様子：現時点での学年方針の達成率は7,8割で、行事参加はいい雰囲気になってきている。

**3年生** 在籍数：71名⇒66名

学年目標：周りのことを考えて行動できる生徒に育てる。

生徒の様子：修学旅行では、一人ひとりが時間とルールを守り、スムーズに集団行動をとることができていた。

進路状況：3年制（通信制コース）生徒（11名）：進学4名、就職1名、未定6名である。

4年制生徒：ビジョンを持たせ、自分の適性をしっかり理解し、進路実現できるように導きたい。

**4年生** 在籍数59名⇒55名（前期卒業2名 中途退学2名）

進路状況：就職9名 進学6名 進路未決定9名

卒業できない生徒も来年度に向けて少しでも単位を取らせていく。

遠足は29名参加し教師と生徒の仲の良い学年である。良くも悪くも距離が近く、生徒のことはよく理解できるが、言葉遣いなどが友だち感覚になっている面もある。

【支援教育コーディネーター・フォローアップコーディネーター】

- ・ソーシャルスキルトレーニングとして、人権ホームルームで人との関わり方や携帯マナーなどの指導をしている。
- ・1年生の少人数展開授業（国・数・英）については、国語科より中間報告が先日あり、昨年よりも静かであり、学力的には同じだが、意欲はやや高い。これらを踏まえて次年度の計画を立てる予定である。数学と英語は、12月の初めに、中間報告をする予定である。

<就労に関して支援が必要な生徒への支援の流れ>

スクールカウンセラーに介入していただき、支援に対してのハードルを低くする。その後、福祉的な社会資源を活用するために、スクールソーシャルワーカーの力を借りながら進めていっている。

本来、家庭は地域に支えられているものだが、家庭の事情などで上手く地域と繋がっていない家庭に対して、スクールソーシャルワーカーとともに、社会資源を活用しながら支えていきたい。

## 【提言】

①相手の気持ちがわからない人が多い。

おとなも子どももインターネット上で自分の興味が合う人とだけ繋がる傾向にある。自分の考えと違う人を攻撃することもある。自分と意見が反対の人と関わることも大事である。

②活字離れしているなので短時間でもよいので本を読む習慣を身につけてほしい。

③あいさつ運動は今後も継続し、あいさつがきちんとできる生徒が増えることを期待している。

④生徒のニーズと学校が提供するものがマッチングすれば、出席率や授業態度、授業アンケートにも反映されてくる。